平成　22　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271401426		
法人名	有限会社　気楽		
事業所名	グループホーム　ポテトの丘		
所在地	長崎県雲仙市愛野乙3501番地3		
自己評価作成日	平成22年11月12日	評価結果市町村受理日	平成23年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　福祉サービス評価機構	
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10　南近代ビル5F	
訪問調査日	平成23年1月12日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

心と心を通わせながら、日々の生活を共に過ごす。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

海、空、畑、大地と、豊かな自然の中に“ポテトの丘”はあり、3人の運営者と職員のﾁｰﾑﾜｰｸは抜群で、日々のご利用者の心身の変化に寄り添い続けている。一つ屋根の下での生活は、ご利用者の方々が主人公であり、お1人お1人、個別の生活リズムが大切にされている。朝6時から夕方17時頃まで入浴ができ、郷土料理や旬の食材、季節の果物を取り入れた食事も変わらず好評である。ホームの看護師を中心に医療連携も続けられ、食事、排泄、入浴含めて、日々の健康管理も丁寧に行われている。この1年、介護計画の中に、通院介助、食事介助、散歩などの“ご家族の役割”も盛り込まれ、ご家族のお力も発揮頂いているが、次第にレベル低下をされていくご利用者の姿と“自立支援”のあり方の変化に寂しさを感じることも多い。集団生活を行うことが難しい方もおられるが、全職員の力を結集し、環境面の様々な配慮も続けながら、穏やかな生活が送れるよう前向きに試行錯誤を続けている。職員の方々の笑顔も変わらず、新しく就職された職員の方も、この温かいホームでのご縁を喜んでおられる姿があった。運営者の姿勢が職員にも伝わり、新しい職員の方々も集って、更なる明るさと光を増しているホームであった。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく暮らしやすい場所ずくりや生きがいのある生活を目指し、楽しく過ごせるように心がけているが、再度折に触れ共有していかねばならないと思う。地域密着については、再度考える必要がある。	日々“気持ち、穏やかに楽しく過ごし”、“人間として誇りをもち、自分らしい最終をむかえたい”という理念の実践を続けている。ご利用者の気持ちを受け入れながら、試行錯誤の中でケアを続ける中で、徐々にご利用者の笑顔が見られる事も多い。新しい職員の方も、自分の笑顔が増えてきているのを感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	重度化し地域の方との交流が少なくなっているが、運営推進会議の出席者が気軽に声賭けをしてくださっている。	ｼﾞｬｶﾞｲﾓ、大根等を地域の方から頂く事も多い。小中学生等の職場体験も受け入れ、子ども達との交流が続けられている。地域の“支援ﾏｯﾌﾟ”作りも継続中であるが、町内会の会合やｺﾞﾐｽﾃｰｼｮﾝの花壇作り、清掃作業にも参加している。22年度は、新人職員も一緒に地域の敬老会で余興を行い、拍手喝さいを頂いた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小中学生の受け入れ・運営推進会議で認知症を理解していただくよう務めている。 いつでも相談に来ていただくように、声賭けをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事・日々の出来事等を報告しサービスの向上に務めている。参加者が多く、活発な意見が出され和やかな雰囲気である。	21年度から、ご利用者、ご家族、4か所の自治会長、老人会会長、民生委員、地域包括の方に会議のご案内を行い、2か月に1回開催している。地域包括の方の講和や、出席者でもある、菓子職人の方に饅頭作りを教えて頂く機会も作っており、参加者の方の楽しみとなっている。毎回、有意義な情報交換が行われている。	今後も、地域の方に認知症の理解をして頂けるように努めていく予定である。日程の関係で、ご家族の出席が難しい方も多い。議事録は渡しているが、会議の前に意見を頂くなど、ご家族の意見が会議に反映できる取り組みを続けていきたいと考えられている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあった時は相談に乗って頂だいているが、連絡は蜜に取っていない。	運営推進会議に地域包括の方に参加頂けるようになり、勉強会を行うこともできた。意見交換も増えてきており、ホームの状況も理解して下さっている。スプリンクラーの設置の相談時や、申請や手続きのために支所を訪れるようにしており、問合せ等の電話をした時にも対応して下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	十分理解しているが、安全を考えるとせざるおえない時もある。今後も検討していく必要がある。	身体拘束に関する研修会にも参加している。“身体拘束は原則全面廃止”という方針のもと、ご利用者個々の行動や心理を把握し、職員同士が連携しながら対応している。お気持ちが混乱されている時は、1人の職員が寄り添い、安心できるような声かけを続けており、行動を抑制しないよう環境上の工夫も続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待が無いように情報交換をしており、スタッフ間がよりよい関係を築くよう務めていく。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について知識がなく勉強していく必要がある。必要な家族には、相談に応じている。一人一人の中まで、入りこむのも考えなければいけない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び解約時は、説明をし理解納得をえている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見に耳を傾け、ミーティング等で話し合っている。年1回の家族会で要望を聞くようにしている。	ご家族の来訪時には、管理者等とゆっくり話せる時間を作っている。写真を満載した“ポテトの丘だより”を楽しみに綴っている方もおられ、会話のきっかけの一つにもなっている。常に、ご利用者とご家族の意見を大切にしており、水面下にある思い(辛さ)を察しながら、少しずつでも、真の思いを伝えて頂けるように努めている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	相談された意見は対応策を検討し、日ごろから意見を言える場や、関係を作るようにしている。	意見交換は活発で、ご利用者の心理を深く考えながら、ケアの仕方やｵﾑﾂの使い分けなど、色々な意見が出されている。新人の職員からも「ここは良い方ばっかりで、家族のように過ごせており、意見が言いやすい」という言葉が聞かれた。今後も研修の回数を増やし、職員個々が疑問に思った事などの勉強会を行う予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望に添えるような勤務体制が、取れるようにしている。家庭を大事にするよう、言葉賭けをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を公開し、希望する研修には参加出来る体制をとっている。勤務や家庭環境もあり、思うようにいかない事もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の交流を含めた、研修旅行を企画した。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心した生活が送れるような環境を心がけ、日常の会話の中で感じ取ろうとしているが、安心させてあげられるような返答ができているか判らない。認知症の方の意思決定は、とても難しい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会をし情報を基に、ミーティングにて対応方法を考慮しながらすすめ、家族の協力もえながら支援している。話せる雰囲気作りを、心がけていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の希望も聞きながら、今本人が一番必要としている事を、考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事を取ったりし、仲間同士も支えあえるような声賭け等を、おこなっている。やれない状況が多くなっているが、試してみる時もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診の付き添い・来訪時の談話・食事介助・外出等して頂いている。家族と本人の絆が薄れないよう、間を取り持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来なくなりつつあるが、判る方には支援している。混乱を招く事もある為、あまり支援できないことが多い。一人一人にあった対応をする中で、その人を知ることを心がけている。	職員は、日頃の会話の中で把握するよう心がけており、知人に“ポテトの丘だより”を送る等の支援もしている。重度化に伴い、馴染みの方の把握が困難な方もおられるが、ご家族から、生活歴を伺う等の取り組みは続けている。職員は、ご家族等が来訪しやすい雰囲気作りを心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し孤立しないように、スタッフが仲に入ったりして、疎通が取れるようしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今は関係が保たれているが、月日が経過すると離れていきがちである。相談等があれば応じている。		
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位な生活が送れるように努めているが、困難な場合は最善策をスタッフで話し合っている。	食事の時や入浴時等、ゆっくりお話をするように努めている。意向の把握が難しい方には、その方の行動をしっかり見つめ、寄り添う中で、お気持ちを察するように努めている。ご家族にも、面談時や電話で生活歴を伺い、過去の生活状況等も含め、その方にとってより良い生活ができるよう、職員同士の話し合いを続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等から情報を得、入居後その人の行動や話す内容からも、くみ取っている。若い頃の生活環境が、なかなか判らない事が多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアや記録・申し送り等を基に、常にスタッフ間で話し合い、理解するよう心がけている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望を聞き又思いを察し、家族の希望も取り入れ、介護計画に盛り込んでいる。これからも耳を傾けていく必要がある。	ご利用者、ご家族の意向を基に、ｽﾀｯﾌﾐｰﾃｨﾝｸﾞで話し合い、介護計画が作成されている。計画には、“ご本人””ご家族”“の役割が盛り込まれ、具体的なｹｱ内容は、日課計画表に盛り込まれている。状況の変化に応じて、計画の変更もされており、 日々の楽しみ等も追加されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に全職員が目を、とうすようにしている。又申し送り等で伝え、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	そのつど色々な方法を考え対応し、状況に応じ変更しながら取り組んでいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の力量を考えながら、対応しているつもりである。本人が活用できる、地域資源を把握していない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診できるような体制であり、かかりつけ医にも話しやすい関係である。	ホームに看護師が勤務しており、職員の安心となっている。週に1回訪問看護を利用し、往診も受けており、24時間体制で医療機関との連携は取れている。職員が診察同行をした時は、受診記録を送付し、ご家族が通院介助時も報告を受けている。行動障害等は、専門医に相談し、適宜ｱﾄﾞﾊﾞｲｽを頂けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時、報告・相談・個別の処置・指示を仰いでいる。又ホーム内の看護師との連携もとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連絡を取り合い、又家族と情報交換をし、退院に向けての話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にﾁｰﾑで支援に取り組んでいる	家族の希望を聞き入れるようにしているが、ホーム内で、できる事を説明している。重度化になるにつれ話し合いながら、すすめている。又来訪時には、今の状態を説明するようにしているが、受け入れることが、できない家族もおられる。	21年度、ご家族等に“終末期”に対するｱﾝｹｰﾄを実施し、意向の確認を行った結果、看取りｹｱを希望されている方もおられた。適宜、話し合いの場を設け、医療機関での治療の必要がない場合、ご利用者、ご家族の意思を最優先とし、ホームでの看取りｹｱが行われている。医療機関、訪問看護との連携も図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回消防署より訓練に来て頂いているが、いざとなると出来るか不安であり、今後も実施していく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	協力体制はとっており、定期的に訓練は行っているが、その場になった時でなければ判らないので、定期的に訓練をしていく必要がある。	職員による夜間想定の自主避難訓練の他、ご利用者、職員、愛野分署の方々と、昼間、夜間を想定しての避難訓練が行われ、消火器の使い方、応急手当、AEDの使い方の研修も受けた。ﾎｰﾑ等には、1週間分の食料と水が準備されており、消防団、住民等に災害時の協力依頼も行っている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉賭けは一番気を使うところであるり、入居者の性格を考慮した声賭け及び、クッション言葉を使い分けながら対応している。対応はその人にとって、それで良かったのかと思う時がある。	ご本人のﾍﾟｰｽを尊重し、“自分の家族だったら”という思いで、職員は、日々の声かけや排泄時の支援等に努めている。自分が言われて嫌な言葉は言わず、忙しいときも意識してゆっくり声かけする努力を続けている。個人情報の管理等、情報漏洩の徹底が図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思を優先する事ができる声賭けをおこない、決定の促がしをしているが、なかなか表現出来ない方が多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけその人らしくを考えているが、共同生活の為、足並みをそろえることも必要である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	重度化が進み決定する事が困難な方が多く、毎日違う物を選び、その人にあった服装を心がけている。髪染め・散髪・髭剃り等、気がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備する事は出来なくなったが、その人に合わせた方法で、見守りながらの食事・食器拭きをしている。見て食欲がでるように、彩りにも気を遣っている。	ﾎｰﾑ周辺は畑も多く、近所の方からの差し入れも多い。美味しい食事を大切にしており、季節の食材は、いち早く食卓に登場している。畑に植えているﾈｷﾞ等も、新鮮なまま台所に運ばれ、料理上手な職員が、彩りにも配慮した食事やﾃﾞｻﾞｰﾄを作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的にバランス良く食べて頂くように、心がけている。水分・食事量をチェックし、補食や介助にて支援している。又状態に応じミキサー・刻み・エンシュアゼリー等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは難しいが、起床・就寝前は、行うようにしている。嫌がられ無理な時もあるが、気の向く時を見計らって、支援していくことが必要である。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体レベルの低下により、リハビリパンツ・パットの使用をしている方が多いが、出来るだけトイレでの排泄が、出来るようにしている。個々に応じ夜間は、ポータブルトイレの使用をしている。	ﾄｲﾚ誘導が必要な方が殆どで、時間やご本人の様子を見ながら誘導が行われている。状態によってﾊﾟｯﾄﾞ等の使用方法を検討し、羞恥心に配慮して、小さな声でﾄｲﾚ誘導を行っている。夜間、非常口をﾄｲﾚと勘違いされる方がおられ、夜間のみ非常口に“便所じゃないですよ”の張り紙をする等の工夫も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主に下剤にたよっているが、担当医・訪問看護・看護職員に相談しながら対応している。便秘にならないように、食事・水分量にきがけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日はスタッフ側で決めている。本人は入りたがらない傾向にあるが、無理強いしないような声賭けを心がけている。中には長く入りたがらない方がおり、どのようにしたら入りたくなるかが課題である。	毎日入浴できる体制となっている。好みの湯温に調節し、ゆっくり湯船につかれるように配慮している。つかまり棒や滑り止めﾏｯﾄを活用して、安全に入浴して頂ける様な配慮もされている。痛みがあって入浴を拒否される方には、痛み止めが効いている時間帯に入って頂く等の配慮も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜は良眠出来るように心がけ、昼間は状態に応じ休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を作り、数の確認や記入をしている。追加・変更がある場合は、全員が確認するようにしている。名前・効能効果・副作用については、理解する必要がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かした役割を、できる方が少なくなって来ており、出来なくなったことに悲しみを感じられる事がある。基本的には自由に過ごしてもらうようにしている。音楽を流したり、塗り絵等をしている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する機会が少なくなっているが、地域の祭りには、見学に行き声を掛けて頂いたりした。家族も、あまり出かけようとされない方が多いので、どのようにしたら、出かけてもらうかが課題である。個々にあった外出をするように話し合っていたが、実行にいたっていない	ご利用者の心身状況の変化もあり、21年秋頃から、日常の散歩も減っている状況にある。季節の行事としては、花見やドライブに出かけたり、ご家族に協力して頂き、病院受診に出かけられている。お部屋に引きこもりがちの方でも、少しでも外気に触れて頂けるよう、職員は諦めずに声かけを続けている。	ご利用者の重度化により、外出が少なくなってきている。今後も、気候や天気、体調などに配慮しながらも、庭での日光浴や、海を眺めながらの食事の機会などを作っていきたいと考えている。今後の取り組みに期待していきたい。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の事が気になる方もいるが、持ったり遣ったりする状況ではない。又持っている事で混乱になったり他者にも悪影響をおよぼす事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望した時や相手からかかって来た時は、やり取りが出来るように支援している。手紙等は、できていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内・換気には、気をつけている。色々物を置き暖かみのある環境にしたいが、出来ないので寂しい面もある。	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの方が自然の木を使って作られたﾃﾚﾋﾞ台や椅子等は、ﾎｰﾑにあったｻｲｽﾞで作って下さるので、空間を有効に使うことができている。ﾘﾋﾞﾝｸﾞやﾎｰの壁には、職員やご家族による手作りの作品が多数掲示されており、ご利用者の状態に応じて、物の配置を変える等の工夫もされている。また、床暖房となっていることもあり、居心地よく過ごして頂いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	どこを見ても誰かがいるような空間になっており、人が居るとゆう安心感の中で生活できるよう心がけている。又他者とぶつからないように、離れて過ごしてもらったり、そっと寄り添うようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	最近入居される方は、なじみの物を持って来られない。なるべく生活観を出すように配慮しているが、品物を置けない状態の人がいる。	混乱の原因にもなるため、居室には何も置かない方が良い方もおられるが、入居時には、ご家族にもお願いし、馴染みの品々を持参頂いている。ﾍﾟｯﾄ、ﾃﾚﾋﾞ、ﾗｼﾞｶｾ等を持参している方もおられ、１人ひとりが安心できる居室作りを努めている。各居室にも、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの方が作られた、木の家具などが置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人と考えているが、共同生活の為出来ない部分もあると思う。		

事業所名：グループホームポテトの丘

目標達成計画

作成日：平成　23　年　2　月　22 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】　注)「項目番号」の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	今後も地域の方に認知症の理解をして頂けるように、努めていく予定である。日程の関係で、ご家族の出席が難しい方も多い。議事録は渡しているが会議の前に意見を聞く等、ご家族の意見が会議に反映できる取り組みを続けていきたいと考えている。	今後も地域の方に認知症の理解をしていただけるように努め、一人でも多くの家族に出席して頂いた中で、意見が出しやすい関係作りに努める。	ご家族全員に運営推進会議の出席依頼をお願いする。又来訪時意見や要望がないか尋ねる。	12　ヶ月
2	18	ご利用者の重度化により外出が少なくなって来ている。今後も気候や天気・体調等に配慮しながらも、庭での日光浴や海を眺めながらの食事の機会等を作っていきたいと考えている。	気候や天気・体調等に配慮しながら、散歩・ドライブ・外食等戸外への機会を増やし気分転換及び他者とのコミニューケションを図る。	ミーティング等の機会を利用して、個々にあった外出の機会を増やす。	12　ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月